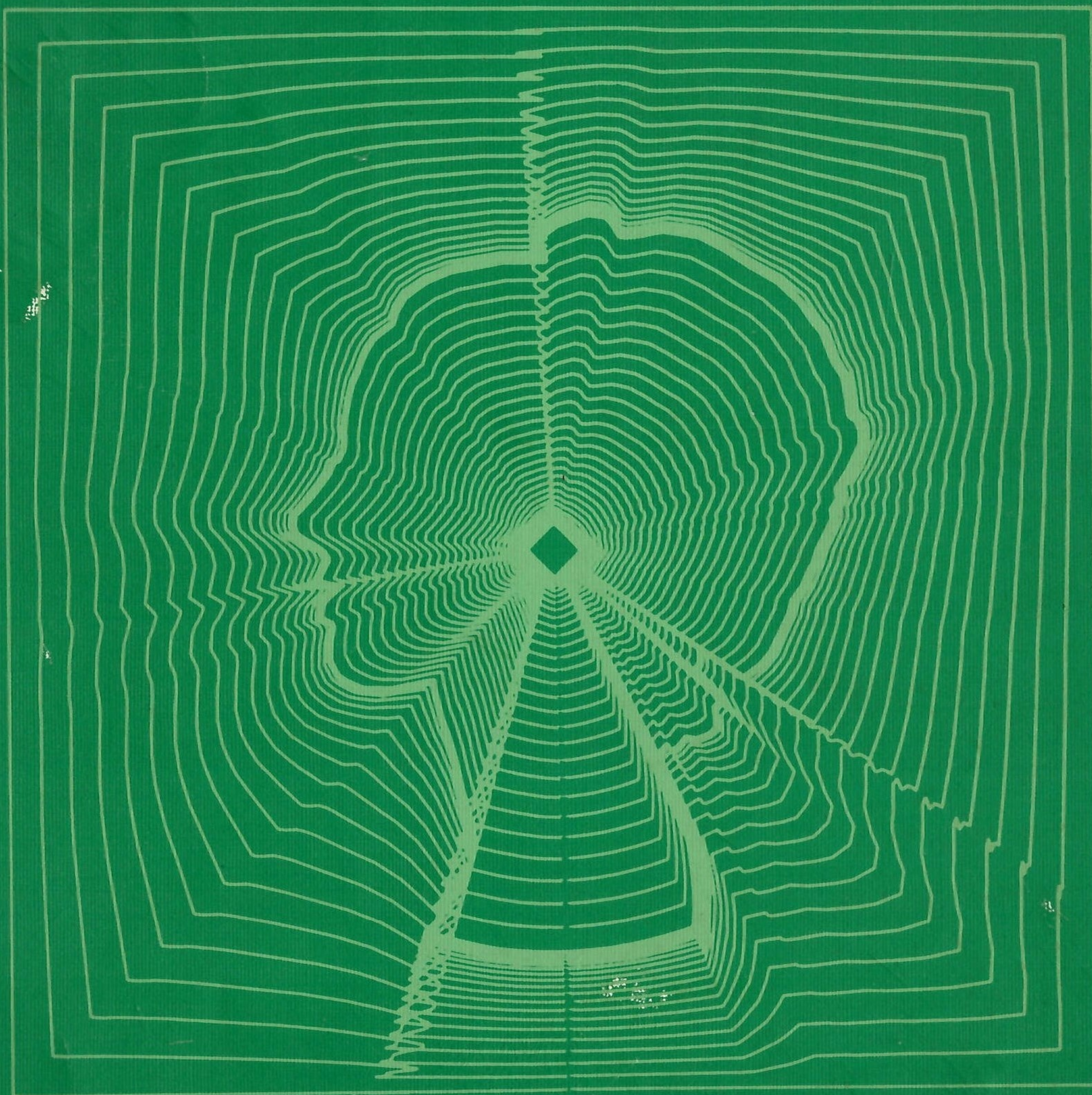


コンピューター・アート展



■1974年6月17日(月)~6月22日(土) ■会場・大阪芸術センター(アベノセンタービル6F)

■主催・ドイツ文化センター(ゲーテ・インスティトゥート)/大阪芸術大学 ■後援・コンピューター・アートセンター/東京

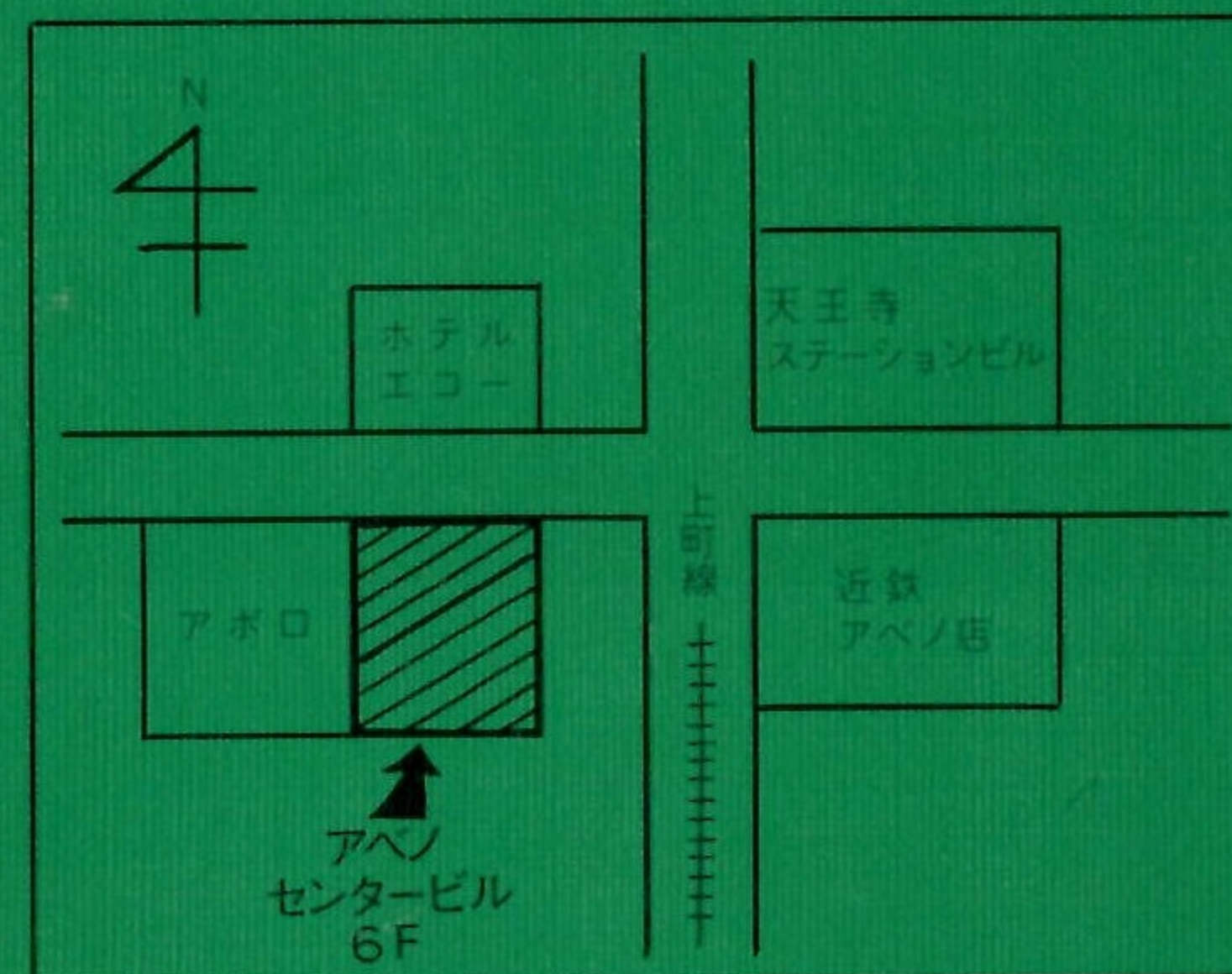
■機材提供・日立電子株式会社

大阪芸術センター

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-36

(アベノセンタービル6F)

Tel. 641-5908



■お問い合わせは…… ドイツ文化センター

大阪市北区堂島浜通1-25

新大ビル9F

Tel. 341-3041

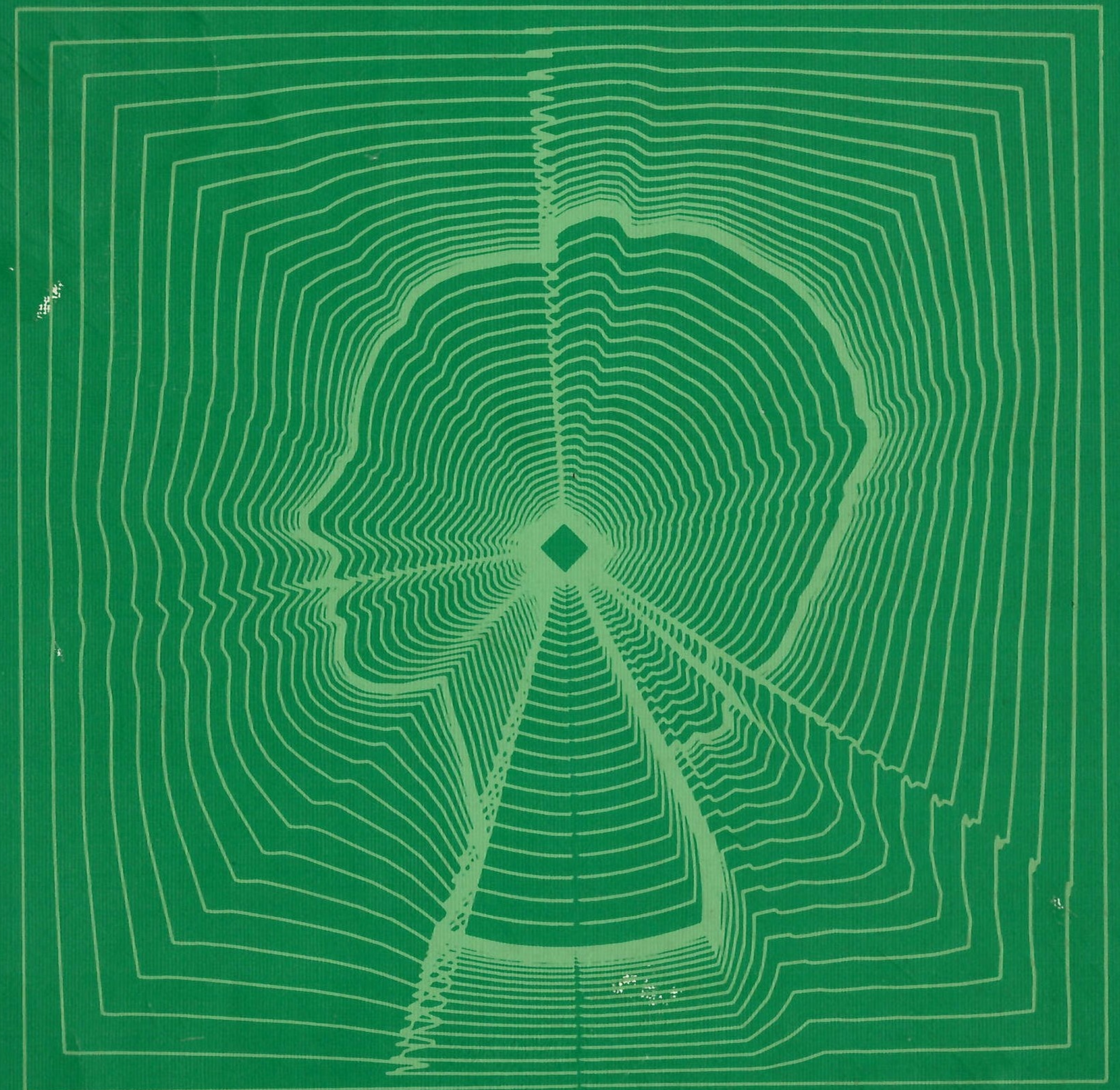
大阪音楽センター

大阪市北区曽根崎上4-20

大阪駅前第1ビル10F

Tel. 341-7617

コンピューター・アート展



■1974年6月17日(月)~6月22日(土) ■会場・大阪芸術センター(アベノセンタービル6F)

■主催・ドイツ文化センター(ゲーテ・インスティトゥート)/大阪芸術大学 ■後援・コンピューター・アートセンター/東京

■機材提供・日立電子株式会社

コンピューター・アート展

グラフィック＋音楽＋フィルム＋講演

～芸術の新しい手段になりうるか。～

～芸術の新しい創造の場を提供できうるか。～

■期間：1974年6月17日(月)～6月22日(土)
12:30p.m.～6:00p.m.

■会場：大阪芸術センター(アベノセンタービル6F)

■主催：ドイツ文化センター(ゲーテ・インスティトゥート)
大阪芸術大学

■後援：コンピューター・アートセンター/東京

■入場：無料

- コンピューター・グラフィック
- コンピューター音楽とコンピューター映画
- 講演とディスカッション

コンピューター芸術は、創造の世界に新しい分野を開拓し、美的造形の領域をより広いものにしていきます。数年前まで、コンピューター芸術は、音楽、美術関係者の立ち入ることのなかった特定の専門分野でありました。しかし、最近世界の各地でコンピューター展が開催され、又認識も深められ、コンピューター芸術として様々の論議の段階をへて、芸術の分野への受け入れができてきました。

主催者としたしましては、コンピューター・アートの芸術への浸透として、この大阪での試みがひとつのきっかけとなって、さらにコンピューター芸術に関する論議が活発に行われ、又、これを契機にコンピューター・アートへの関心が高まりますことを、心より望んでおります。

講師紹介

端山 貢明

作曲家

コンピューター・アートセンター責任者

一 柳 慧

作曲家

大阪芸術大学講師

幸村真佐男

コンピューター・テクニク・グループ(C・T・G)

を組織、現在、イメージ工学研究所所長

上 浪 渡

NHKチーフディレクター

大阪芸術大学講師

(A B C 順)

I. コンピューター・グラフィック

このコンピューター展示は、H・W・フランケによって蒐集され、1968年夏、ベルリンで開かれたマサチュセッツ工科大学、及びベルリン工科大学共同主催の同名の展示会から厳選され、最近の作品より補充されたものが、今回展示される。

“コンピューター芸術への道”

芸術は記号の認識、学習、究明の行為と密接な関係にある。芸術は情報的現象であり、芸術の機械化は情報処理のシステムが使用出来る様になったとき、始めて満足すべき成果を上げる事が出来る。コンピューターの発展によってこの前提が満された。コンピューター芸術への道は開かれたのである。

コンピューターは美的秩序を構成する為の理想的な手段を提供しているのであるが、それにもかかわらずこの可能性は今まで殆んど利用されなかった。コンピューター芸術がその効果を充分発揮出来るようになる為には、まだ長い準備期間を必要とするであろう。

コンピューターによって具象的な描写をする事も可能である。しかしコンピューターの活動領域は先ず第一に構造主義的傾向をもった作品を作る事にある。幾何学的なコンピューター・グラフィックは計算器と視覚的なデータ処理の機械の発展の長い道程の論理的帰結として生れたのである。ここに展示された作品はコンピューター・グラフィックへの移行の最後の段階を示している。

H. W. フランケ

出品作家

ドイツの部

Klaus Basset
Herbert W. Franke
Hein Gravenhorst
Karl M. Holzhäuser
Gottfried Jäger
Manfred Mohr
Frieder Nake
Georg Nees
Ludwig Rase

日本の部

C T G
幸 村 真佐男
郡 山 正
大 平 智 弘
出 原 栄 一
川 野 洋
下 村 千 早

アメリカの部

Lillian Schwartz
Stan Vanderbeek
G・Jager apporative grafik
Len Sacon (Adage・co)
Kerry Strand
C・Csuri・J・Shaffen
D・W・Roboins
Boeing Computer Graphic
Philip Peterson
Dan Cohen, Dick Land
Manfred Schroeder
Manuel Barbadillo
Ken Knowlton
Ruth Leavitt
Jacques Palumbo
Miljenko Horvat
Roger Vilder

II. コンピューター音楽とコンピューター映画

1. コンピューター音楽

会場にて常時音楽をながしています。

オーディオ及びビデオテープによる演奏

(オーディオ及びビデオテープはコンピューター・アートセンター/東京の提供による。)

Synthes:sm	Vercoe	(ステレオレコード)
Turenus	Chown:ng	(モノラルテープ)
Home made synthes:zer music with sliding pitches	Behrman	(4chテープ)
Earth's magnet:c field	Dodge	(ステレオテープ又はレコード36cm)
HPSCHD	Cage	(レコード)
Continuity	芝本	(4chテープ)
Study No.5	Olive	(ステレオテープ)
他	mathews, Ashley, Raudall 等	

2. コンピューター映画(カラー16mm)

上映は期間中 2:00p.m.

木・金・土は 2:00p.m. 5:00p.m.

プログラム

1. John. Whitney "Lapis" 9分
2. John. Whitney Jr. "Terminal Self" 7分
3. John. Whitney Jr. "Metrics" 7分
(以上フィルムは大阪アメリカン・センターの提供によるものです。)
4. Georg Nees "Spuren von Bedeutung" 3分
5. コンピューター・テクニク・グループ(C・T・G)
"Computer voice No.1" 20分

III. 講演とディスカッション

講演

6月17日(月) 3:00p.m.~5:00p.m.

講師:端山 貢明

テーマ:新しいメディアとしての音楽とコンピュータースペース

(実例にコンピューター音楽・スライド使用)

6月18日(火) 3:00p.m.~5:00p.m.

講師:幸村真佐男

テーマ:現代の要請としてのコンピューター・アート

☞ 大脳皮質空間へのアプローチ ☞

(実例にコンピューター音楽、フィルムを使用)

ディスカッション

6月19日(水) 3:00p.m.~5:00p.m.

司会:上 浪 渡

出席者:端山 貢明、一 柳 慧、幸村真佐男